

|      |                       |
|------|-----------------------|
| 推進主体 | 国際文化交流学部<br>【旧 教務部】   |
| 責任者  | 国際文化交流学部長<br>【旧 教務部長】 |

| 分類    | 実施計画          | 開始年度    | 完了年度    | 将来的な継続 |
|-------|---------------|---------|---------|--------|
| 教 — B | ポストコロナの国際化の展開 | 令和 4 年度 | 令和 9 年度 | あり(予定) |

① 目的・内容

新型コロナウイルス感染症により自由な国際移動が阻まれる状況は、国際化の推進において今後模索すべき方向性も示した。こうした理解に立ち、①海外短期研修の見直し・再編成、②協定校との連携強化を通じた国内での学びの国際化、③アジア・オセアニア地域との連携強化、を軸とし新たな次元での国際化の推進を図る。

①では、複数ある海外短期研修を、物理的な移動を前提とするものと、国内のみでの受講が可能となるものへと2極化させる。後者は、完全にオンラインで実施、もしくは科目内に研修部分を組み込むことにより可能となる。これにより従来、時間的・金銭的な理由で参加者が限定された海外短期研修を、より広い学生層に対し提供することができる。またオンライン語学プログラム受講による単位認定の拡充を図る。

②では時差の小さい地域の協定大学との同時開講科目を増設するとともに、協定大学による現地語による授業、日本語同時授業の実施など、多様な形態のオンライン授業を創設する。①、②ともにオンライン化の効果分析を内包する。

③では外国語科目2群において今後関係強化が見込まれるベトナムなどの東南アジア言語科目を開設する(同地域における協定締結や留学生の獲得にも貢献)。

② 到達目標(数値目標/定性目標) ※数値目標を設定できない計画は、定性目標を設定すること。

- ・海外同時開講科目の新設(2件) ・海外短期研修の科目内オンライン化(2件)
- ・海外協定校への教員の派遣(2件) ・東南アジア語科目の新規開設(1件) ・新規協定校との提携(1件)

③ ロードマップ

| 年度 | 令和3年度<br>(2021年度) | 令和4年度<br>(2022年度) | 令和5年度<br>(2023年度) | 令和6年度<br>(2024年度) | 令和7年度<br>(2025年度) | 令和8年度<br>(2026年度) | 令和9年度<br>(2027年度) |
|----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 予定 | 制度の検討と準備          |                   | 学内承認              |                   |                   |                   |                   |
|    |                   | 制度設計              | ●                 | 制度開始              |                   |                   |                   |
|    |                   |                   |                   |                   |                   |                   | 学内承認              |
|    |                   |                   |                   |                   |                   |                   | ●                 |
|    |                   |                   |                   |                   |                   |                   | 制度評価・再設計          |

④ 数値目標の詳細 ※設定できない計画については記載不要。

| 指標の名称 |    | 指標の定義(計算式/説明)     |                   |                   |                   |                   |                   |
|-------|----|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 1     | 直近 | 令和4年度<br>(2022年度) | 令和5年度<br>(2023年度) | 令和6年度<br>(2024年度) | 令和7年度<br>(2025年度) | 令和8年度<br>(2026年度) | 令和9年度<br>(2027年度) |
| 目標    |    |                   |                   |                   |                   |                   |                   |
| 実績    |    |                   |                   |                   |                   |                   |                   |
| 2     | 直近 | 令和4年度<br>(2022年度) | 令和5年度<br>(2023年度) | 令和6年度<br>(2024年度) | 令和7年度<br>(2025年度) | 令和8年度<br>(2026年度) | 令和9年度<br>(2027年度) |
| 目標    |    |                   |                   |                   |                   |                   |                   |
| 実績    |    |                   |                   |                   |                   |                   |                   |

| ⑤ 実施計画／実施報告       |  |   |
|-------------------|--|---|
| 年度                | 実施計画   | 実施報告／今後の課題  |
| 令和4年度<br>(2022年度) | 初年度は、時差の少ないアジアの大学との同時開講授業を立ち上げるための準備を行う。本学から教員2名を相手大学に派遣し、打ち合わせを行う。具体的な検討が進んだ段階で、相手大学から2名の教員を本学へ招聘し、細部の合意を目指す。さらにこれまで学習院国際交流基金の助成により現地研修を行ってきたラオス海外研修を、国際文化交流論VI(ラオス)の中に組み込み、科目内のオンライン研修として実施する。この受容を観察しつつ、新たな研修の形態を模索する。  | 令和5年度より、「多文化学際科目IX(東アジア地域)」を立ち上げ、韓国の誠信女子大学とオンラインによる同時開講授業を開始することが決まった。このために、本学から専任教員1名を派遣し、授業の詳細について詰めの作業を行った。また、令和5年度より「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」を開講する。これは隔年でタイとラオスを対象とし、現地での研修も行うものである。令和5年度についてはタイを対象国とする。   |
| 令和5年度<br>(2023年度) | 令和5年度より、新規の海外同時授業と海外研修を開始する。共通科目に新たに多文化学際科目群が設置されるが、「多文化学際科目IX(東アジア地域)」において、韓国誠信女子大学との同時授業を創設し、東アジアを中心とした地域における諸問題に関してアクティブラーニング型の授業を展開する。また新たな海外研修先としてタイとラオスを加え、「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」においてこの2国を交互に訪問するものとする。これらにより、広範なアジア地域との交流がさらに活発になることが期待できる。東南アジア言語科目の開設については引き続き検討する。                               | 「多文化学際科目IX(東アジア地域)」および「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」を開講した。「多文化学際科目IX(東アジア地域)」においては、主な学習活動であるオンライン同時授業に加え、初回授業では教員と学生(希望者)が韓国の誠信女子大学を訪問してフィールドワークや文化体験を実施した。「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」においては、本年度はタイを研修先とし、現地学生・NGO関係者・現地機関の日本人等と共に活動した。いずれも学びの国際化や多様化を推進できたと言える。東南アジア語科目の新規開設については、令和6年度より「タイ語 基礎」を開講することを決定し、開講に向けた準備を進めた。海外短期研修の再編成については、中欧研修の単位数見直しを行い、卒業必要単位への算入を2単位から4単位へ拡充することとし、令和6年度よりの適用を決定した。 |
| 令和6年度<br>(2024年度) | 令和6年度より、東南アジア語科目として「タイ語 基礎」を開講する。令和4年度にタイのアサンプションと協定を締結し、令和5年度に「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」を開講したことにより、本学とタイの関係が強くなっている状況の中、タイ語の修得は学生と現地とのより活発な交流が期待できる。なお、「タイ語 基礎」開講後の実績等を踏まえ、「タイ語 基礎」の継続および「タイ語 応用」の新設を検討する。海外協定校への教員派遣についても、引き続き検討する。  | 東南アジア語科目として、春学期に「タイ語 基礎Ⅰ」、秋学期に「タイ語 基礎Ⅱ」を開講した。本授業では、タイ文字の書き方や単語練習のほか、ペア・グループワークやロールプレイなどの演習を通して、タイ語の基礎的な運用能力(話す・聞く・読む・書く)の修得を目指した。令和5年度に開講した「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」においては、本年度はラオスを研修先とし、研修に参加した学生は現地の環境・生活文化にふれながら、実際の経験を通してラオスという国、土地、人への理解を深めた。こうした学習言語・研修先の拡充により、学びの国際化を推進し、他文化との交流をより一層活発化したと言える。  |
| 令和7年度<br>(2025年度) | 令和6年度に引き続き、「タイ語 基礎Ⅰ／Ⅱ」を開講するとともに、令和7年度は「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」においてタイ研修を実施し、「タイ語 基礎Ⅰ／Ⅱ」を履修・修得した学生が語学学習だけではなく、実際に現地と交流できる機会を提供する予定である。なお、当初計画していた「タイ語 応用」の新設については、学習院大学との統合計画に伴い、実施を見送ることとする。また、海外協定校への教員の派遣については、韓国の誠信女子大学への派遣に加えて、令和7年度はカナダのレスブリッジ大学にも教員を派遣する。これにより、協定校同士のより積極的な交流と海外同時授業プログラムの内容の更なる充実を目指す。 | 令和6年度に引き続き、「タイ語 基礎Ⅰ／Ⅱ」を開講した。「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」において、本年度はタイを研修先とし、本学学生からアサンプション大学学生への発表や交流会開催等の新規活動を実施し、より充実した研修となった。海外協定校への教員の派遣において、本年度の新規事業となるカナダのレスブリッジ大学への派遣では、本学教員が関係者と親睦を深めた上で、レスブリッジ大学学生を対象とした対面授業を実施した。従来はオンライン中心だったやり取りを対面で実現したことにより、国際交流をより一層推進できた。  |
| 令和8年度<br>(2026年度) | 令和7年度までに新規開設した科目をいずれも継続開講し、学生に他言語修得および多文化交流の機会を提供する。「国際文化交流論VII(タイ・ラオス)」において、本年度はラオスを研修先とする。海外協定校への教員の派遣についても、韓国の誠信女子大学とカナダのレスブリッジ大学の両校を継続して訪問し、協定校同士の交流および海外同時授業の一層の充実を目指す。   |   |